

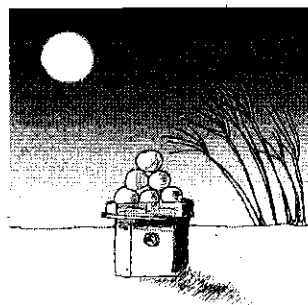
1/2 (土) まいど! 倫理号です。暑さ寒さも彼岸までと昔からいいます。丁度今が

いちばん良い季節だと思います。私も現場へ仕事に行きま

今週の倫理 944号 仏頂面の人ってどこでもいっしょ 2015.9.26 ~ 10.2

います。愛想のいい人はいません。
現場も職場も失敬一声から
幸せな林一鳥

心の内は 人に伝わる



九月のテーマ

心と形

え・古屋智子

建

設会社で働いているAさん
は、数カ所の現場を受け持
っています。どの現場にも、様々

な業者が出入りしています。

とあるビル建築の現場に入った
際、一緒に仕事をする業者の中
に、どうしても苦手な人がいました。

その人はいつも仏頂面でした。

表情が険しく、口を開けば嫌味を
言います。何度か顔を合わせても、
「ちよつと嫌なタイプだな」とい

う第一印象は拭えません。一度苦
手だなと思うと、することすべ

てが気になって、イライラは募るば
かりでした。

それでも、自分から挨拶をする
ように心がけていたAさん。社長
からいつも「挨拶は人間関係の基
本。どこにいても明るく爽やか
に挨拶するように」と教えられて
いたからです。

また、休憩時間には缶コーヒー
を持って話しかけ、打ち解けよう
と努力をするのですが、状況は変
わらないままでした。

このままでは、肝心の仕事にも
支障をきたしてしまいます。何と

か関係を良くしたいと思ったAさ
んは、次のように考えました。

「この人はずっとこうだったんだ。
今さら変わるわけがない。ならば、
そのままを受け入れよう」

そう考えると、吹っ切れたよう
に心が軽くなったのです。

これまで、缶コーヒーを差し入

れていたのも、「相手に取り入りた
い」という心からでした。苦手意

識はあるものの、「相手に自分のこ
とを好きになつてほしい」という
のが本心でした。

それが、「この人はこのままでい
い。仏頂面も個性なんだ」と考え

ると、顔を合わせる事が苦痛で
はなくなったのです。気軽に会話
ができ、自然に笑顔がこぼれまし
た。すると、相手も笑顔を返して
くれたのです。

相手ありのまま受け入れよう

と思った時、これだけ状況が変わ
るのかとAさんは驚きました。そ
の後には苦手意識もなくなり、スム
ーズに仕事が進むようになりました。
やがて、別の現場でも、その
人から指名が入るほどの信頼関係

が生まれたのです。

人と人が対面する場においては、

言葉以外にも、表情や視線、姿勢、
動作など様々な要素が組み合わさ
つて、コミュニケーションが取れ

ます。表向きは笑顔で接してい
ても、心の中では「何となく嫌だな」
《苦手だな》と感じていることは

誰にでもあるでしょう。

そのような心は、どこかに表わ
れてしまうものです。心と身体は

ひとつながりだからです。
人間関係でうまくいかない時

その根本には、相手を避ける気持
ちが潜んでいるかもしれません。

たとえ「好き」にはなれなくても
「嫌わない」こと、「相手をそのま
ま受け入れる心持ち」を人間関係
の根幹に据えたいものです。

最後に、倫理運動の創始者・丸

山敏雄の言葉を引用して、今月の
テーマを締めくくりましょう。

「明るい心が、身体を健康にし、家
庭を明朗にし、まわりを楽しくし、
仕事を順調にする。心が先であり、
心がすべてである。」

(丸山敏雄著「人類の朝光」)